

平成24年度 中央分団防災訓練

平成24年9月18日
中央分団長 那智博行

今回の防災訓練では中央分団作成の防災マニュアルの検証を行いたいと思います。
防災マニュアルに従った行動した場合、問題がないのかを各部で検証して頂きたいと思います。
ご協力をお願い致します。

基本的な留意事項

- ◆通常の「仮定の訓練」ではなく、昨年の震災をイメージした「現実的な防災訓練」として下さい。
- ◆中央分団防災マニュアルを基本とした行動をお願いします。(不備・欠点を見つけるため)
- ◆防災マニュアルにある、町内の一時避難所は「団庫」とします。
- ◆訓練想定 震源地：千葉県房総沖 規模：M8.1 震度6強 (今回の訓練を引用)
- ◆各部長・班長が指揮を執る。

- 07:00 市の行政防災無線による「地震の発生」の通達 (中央分団無線 本部開局)
:05~10 家族の安全を確保し消防団員としての任務開始「本署市町村波」を聞きながら団庫に集合。
:10~15 中央分団無線にて、状況(団員人数・被害状況・今後の活動)などを報告する。
:15~30 消防車両による巡回(防災テーブルなどが装備されていれば使用すること:口頭も可能)
:30~35 防災訓練会場(避難所)付近へ集合。中央小2・4・5部 二中1・3・6
:40 **本署の市町村波より「火災の発生」の通達**
:40 部長指示の元、各部互いに連携し中継体制を作り放水を始めて下さい。
:55 鎮火
- ※ 目的的に時間を記載しましたが、各部で調整して下さい。
※ 40分の火災発生に間に合うように避難所に付近に必ず集合して下さい。

よりリアルに実践的に行う為に

- ・ 団庫に集まる団員は、団庫に近い団員数名でも構いません。
- ・ 町内巡回時にそれぞれの団員宅前で「合流」なども…
例)「101、現在3名集合、今から町内巡回を行います」
巡回時「101、〇〇団員の生存を確認!合流しました。」と、無線にて本部へ連絡。
- ・ 無線機の通話範囲を確認するため各部との交信テストなども…
例)「101より各局へ、傍受(受信)できた部は再送下さい。」
「501です。101傍受(受信)できました。」

火災防御訓練の放水時の注意事項

- ・ 八日市場小付近の道路を一時通行止め(手前の交差点にて迂回指示)各部から選出をお願いします。
- ・ 二中校門前はホースブリッジを使用し一般車両を安全に誘導して下さい。

中央分団防災訓練（マニュアル検証）の必要性

全国各地では東日本大震災後「一般住民参加型の防災訓練」や「行政と民間企業での合同の防災訓練」など、各自治体が中心になり、より現実的な合同防災避難訓練が行われています。しかしながら中央地区では例年通りの「自主防災組織育成型訓練」各団体・自治体（町内）が別々に行う防災訓練として行われます。

東日本大震災発生後、中央地区では防災・防犯に関わる全ての組織（各団体・消防団・町内会）は連携もとれず、我々消防団員も全く機能しませんでした。

その失態・経験を踏まえ、消防団員としての「震災初動行動マニュアル」を作成しました。

各部が地元の区長・組長・役員と連携を図り、住民をより安全に避難させる。また中央分団のネットワークを使い、中央地区全体の正確な情報を共有し、行政との連携も速やかに行い災害活動をより円滑に進めるためのマニュアルです。

近い将来、また大きな震災が起こると予想されております。その際に役立てれば…と。